

A) 他チームの発表を聞いて

自分たちのチームにない解決策を提案しており、特に参考になったのはチームオムライスの発表であった。チームオムライスは、交通事故を減らすために運転者の注意力に頼るのではなく道路そのものの環境を変えるという視点を指摘していた点が印象的だった。具体的には道路を光らせたり音を出したりすることで運転者に注意を促し、時間帯によって昼は音、夜は光と使い分ける工夫が提案されていた。音による注意喚起は視線を前方に向けていなくても気づきやすく、不注意や居眠り運転の防止に繋がる点が参考になった。また、環境を変えることで人の行動を自然に安全な方向へ導くという考え方は、自チームにはなかった視点であり、地方都市の交通安全を考える上で有効であると感じた。

B) 地方都市における交通の問題を総合的に解決するための自分の意見

自分たちのチームでは地方都市における交通問題の原因として、登下校時に子供が一人で行動する機会が多いこと、通学路や学区内の安全対策が不十分であること、交通安全教育の不足、地域全体での見守り体制の弱さなどを挙げて検討していた。

具体的には、登下校時に可能な限り保護者が同伴することで子供が一人で行動する機会を減らすことが重要であると考えた。特に低学年の児童や交通量の多い場所では、

この対策が事故防止に有効である。また、通学路など学区内の安全を確保するためにガードレールの設置、見守り隊の活動、スクールゾーンの設定といった対策を行う必要があると考えた。さらに、集団登下校を実施することも自チームの提案の一つである。複数人で行動することで様々な角度から安全を確認できるだけでなく、子供同士でも危険に気づき注意しあうことができる点が大きな利点であると考え。加えて、交通安全教育の充実も欠かせない。幼稚園や保育園、小学校の段階から飛び出し事故の危険性や道路の安全な渡り方を教える必要がある。年齢に応じた内容とすることが重要であり、小学校では映像教材やシミュレーションを活用することでより具体的に危険を理解できると考えた。また、保護者を対象とした安全講習会を開催し、家庭でも継続的に交通安全について学べる環境をつくることや、親子で実際に通学路や学区内を歩きながら危険箇所を確認することも提案した。しかし、チームオムライスの発表を聞いたことで自分たちの提案に新たに加えるべき視点があると感じた。それは、人的な見守りや教育だけでなく道路環境そのものを工夫することで運転者の行動を変えろという考え方である。道路を光らせたり音を出したりする仕組みは通学路や横断歩道付近においても有効であり子供の存在に運転者が気づきやすくなると考えた。

これらを踏まえると課題は「子供が一人で行動する機会を減らすためには」、「学区内の安全を確保するためには」、「複数の目で安全を確認するためには」、「年齢に応じた交通安全教育を行うためには」、「家庭でも継続的に安全意識を高めるため

には」、「道路環境から運転者に注意を促すためには」という六つが設定される。これらを共通して解決するためには人の行動と環境の両面から交通安全を考える視点が重要であると考え。そこで、ビジョンとして地域全体で子供の安全を支える交通環境の実現を設定した。チームで検討した際はビジョンを人による見守りと教育の充実としていたため、そこに環境を変えるという視点が追加されたことになる。このビジョンを踏まえて解決策を考えると、登下校時の安全については保護者同伴や集団下校の実施が学区内の安全確保についてはガードレールやスクールゾーンの整備、見守り隊の活動が考えられる。また、運転者への注意喚起については、光や音を活用した道路整備を導入することが有効であると考え。

これらの実施により、子どもの交通事故の減少や地域全体の交通安全意識の向上が期待できる。一方で、光や音を用いた設備の導入には費用や維持管理といった課題もあるため地域の実情に応じた方法を検討する必要がある。しかし、人による見守りと環境整備を組み合わせることで、地方都市においても持続可能な交通安全対策が実現できると考える。